

# 適期収穫で 全量1等に仕上げよう

長岡農業普及指導センター  
麦作情報No. 4

代表電話 0258-38-2554

E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

## 収穫・調製作業のポイント

- ① 「適期収穫」を行う  
(成熟期の2～3日後から収穫開始。成熟期は出穂後35～40日がめやす。)
- ② 赤かび粒・麦角粒を混入させない。  
(発生した場合は、刈り分け・区分乾燥・調製を行う。)
- ③ 粒選は確実・ていねいに  
(ふるい目は2.3mm以上。選別機の流量は多過ぎないように。)

### 1 収穫期のめやす (5月11日現在、アメダスデータからの予測)

※平均的な出穂期・調査ほ場の概況から推定

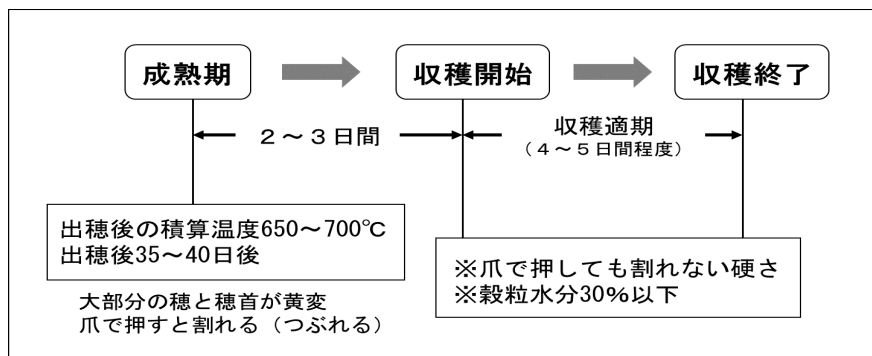
(普及指導センター調べ)

地域	出穂期	成熟期	収穫適期
長岡地域	4月19～24日	5月30日～6月4日	6月2～7日
三島地域	4月22～24日	6月2～5日	6月5～8日
寺泊・出雲崎地域	4月15～20日	5月29日～6月4日	6月1～7日

(注1) 各地域の出穂期からの日平均気温の積算値が650～700℃となる日を「成熟期」と予測し、成熟期+3日を「収穫始期」とした。

(注2) 日平均気温は、長岡・三島地域は長岡アメダスの値を、寺泊・出雲崎地域は寺泊アメダスの値を用いた。

- (1) 管内の出穂盛期は4月20日頃で、平年より5日早く、前年より11日早まりました。
- (2) 成熟期は5月末～6月上旬頃と予想していますが、今後の気象によって前後します。  
必ずほ場ごとに成熟状況を確認し、適期に収穫しましょう。



## 2 収穫適期

- (1) 成熟期は大部分の穂・穂首が黄変し、子実が「ろう」状の硬さになった頃です。  
(出穂後 35～40 日、出穂後の日平均気温の積算値で 650～700℃が目安)
- (2) 収穫始期は成熟期の 2～3 日後からです。穂軸や茎葉が完全に黄化し、大部分の穂首が傾き始め、粒を爪で押してもつぶれない状態になったら収穫を始めましょう。
- (3) 収穫適期は成熟期の 7 日後頃までの 4～5 日間程度です。  
→ 適期幅が狭いので、計画的な作業が重要です。  
○早刈りは、細麦や空洞粒の発生を招きます。  
○刈遅れると品質が低下し、穂首が折れやすくなって刈取損失が増加します。

## 3 病害粒の混入防止

- (1) 赤かび粒
  - ア 食用麦の農産物規格規程(検査基準)では、赤かび粒の混入限度は 0.0%です(10,000 粒に5粒以上で規格外)。  
※ 赤かび病菌は毒素を生成することがあり、人・畜が大量に摂食すると中毒症状を起こす。
  - イ 一定程度以上の発病がある場合は、発生のないほ場とは別に収穫(刈り分け)・乾燥・調製を行うことが必要です。
  - ウ 乾燥・調製施設等や生産物への被害粒混入を回避するため、ほ場見歩き調査(出穂 30～35 日後)が重要です(登熟が進むと被害粒の確認が難しくなる)。

【参考】：赤かび病の発病状況調査の方法及び刈分けの必要性の判断について

ほ場調査の目安：10m 間に発病穂が 1～2 本以上あれば刈分けが必要！

- ① ほ場の外周を幅 1 m の範囲で約 100m (100 m<sup>2</sup>) 観察し、発病穂数を数える。
- ② m<sup>2</sup> 当たり穂数を達観で推定する(通常は、おおむね 300～500 本程度)。
- ③ 発病穂率を算出する。発病穂率(%) = 発病穂数 ÷ 調査穂数[m<sup>2</sup> 当たり穂数 × 100] × 100
- ④ **発病穂率が 0.03% (10,000 本に 3 本) 以上**の場合は、発病粒率を調査する。  
発病粒率 0.005% 以上の場合は、刈分けを行う等、正常麦への混入対策を行う。

- (2) 麦角粒
  - ア 農産物検査における麦角粒の混入最高限度は 0.0% です。
  - イ 越冬後にイネ科雑草(スズメノカタビラやスズメノテッポウ等)の穂に感染し、その後の雨や虫媒等で大麦への感染(開花期の感染が多い)が拡大します。
  - ウ 連作ほ場やイネ科雑草の多発ほ場では、雑草対策を徹底し、収穫前に特に注意して発生の確認を行い、多発生の場合は刈分けを行ってください。

## 4 粒選の徹底

- (1) 選別機のふるい目は 2.3 mm 以上を使用しましょう。
- (2) 穂数が多いほ場や倒伏したほ場は細麦が多くなります。選別機の流量が多過ぎると細麦や未熟粒の除去が十分にできません。適正な流量で、ていねいに選別しましょう。